

理系英会話の本質—学ぶにあたって

▶ よくある誤解

理系みなさんはよく、次のように訴えます。

- ☐「英語は不慣れだし、誤解だけは避けないと…」
- ☐「失礼のないよう、慎重に言葉を選ばないとね」
- ☐「理系だし、専門用語こそ大事！」
- ☐「化学系、物理系、工学系、農学系…分野で使えるフレーズは全然違う」

あなたも心当たりはありませんか？ 実は、いずれもほんの少しの誤解を含んでいます。例えば、

- ☐ 誤解を避けるには、とにかく発言すること。それが本当の意味での誤解をなくします
- ☐ 本当に失礼なのは、言い回しよりも、慎重すぎてタイミングを逃すこと
- ☐ 専門用語は重要ですが、それだけでは会話は成り立ちません
- ☐ どの分野でも使える、共通の即戦力フレーズがあります

こうした誤解を解き、そして、本書の汎用フレーズを覚えれば、似た場面に遭遇しても心配無用です。フレーズを組み合わせられるようになれば、より多くの場面でスムーズなコミュニケーションがとれるでしょう。自分次第で、応用の範囲はとても幅広いのです。また、なかには

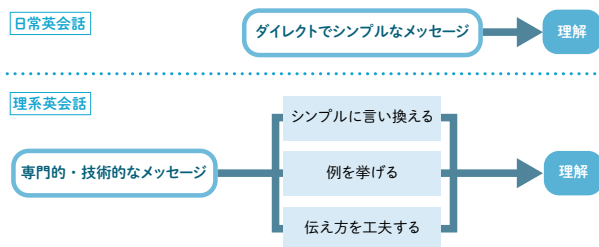
- ☐「英語学習のとき、日本語訳がないとなに言ってんのかサッパリ…」

と思う人もいるかもしれません。でも、英会話中にイチイチ頭のなかで日本語化しては会話になりませんよね。本書では、日本語訳は極力つけず、あえて英語中心の本文と動画音声、練習メニューを提供しています。英語メインのもと、英語の即興性を磨く練習をしてみてください。それに、よく聞いて、口に出してみてください。いずれも、辞書を引く必要があるような難しい表現ではありません。むしろ日常会話的なフレーズです。実は、理系英会話と日常英会話はとても近いものなのです。

▶ 理系英会話と日常英会話の「共通点」と「相違点」

とはいえ、理系英会話と日常英会話には1つだけ大きな違いがあります。それは、使われる語彙の種類に起因します。日常会話で使われるボキャブラリーはもっともシンプルなものに限定されます。相手に伝えようとするメッセージそのものが単純であることがほとんどであり、あえて難しい語彙を用いる必要がないのです。

しかし、理系の会話ではそうはいきません。伝える情報の正確さを求めると、どうしてもネイティブスピーカーでも聞いたこともないような難解な単語が出てきたり、分野がひとつ違えば全く理解できないような専門用語が飛び交います。そこで、理系英会話では正確な情報を発した後に「理解者を増やすための工夫を凝らす」というステップを加えることが重要になります。このステップで使われる語彙は、日常会話のそれと同様、なるべくシンプルであるべきです。



「工夫を凝らす」と一言にいても、方法はさまざまです。聞き手がわかりやすいように専門用語を一切省いて説明する、実際の例を挙げてイメージを掴みやすくする、最も重要な点を強調して話す、聞き手が興味をもつような別の話題に喩えて説明する。

時と場合と相手によって、これらの話法を使い分けることができれば、誰にでも伝わる英語コミュニケーションスキルを有する、と胸を張っていえるでしょう。なぜなら、このことを除けば理系英会話と日常英会話に違いはないのですから。

それでは、理系英会話アクティブラーニングのスタートです。